

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271600502		
法人名	株式会社 レオパレス21		
事業所名	あずみ苑 並木町		
所在地	千葉県成田市並木町25-108		
自己評価作成日	平成25年 2月 6日	評価結果市町村受理日	平成25年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成25年 2月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あずみ苑並木町は、ご利用者様の尊厳を大切にし日々のサービスを提供しております。毎月、イベントを実施・提供させて頂いております、楽しいことを一緒に計画し、皆で作りに上げるイベントはあずみ苑ならではです。楽しいことを楽しみにすることで日常生活にメリハリが生まれ、生きがいに繋がります。利用者様の安心・満足を私達の満足でもあり、すべての人がつねに笑顔で過ごし、自分らしく生きる喜びを感じられる環境作りを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の閑静な住宅街にある、鉄骨2階建てのレオパレス21が運営するホーム(苑)である。広めの廊下には利用者の日々の活動風景の写真や作品が貼り出されている。職員夫々の名前と写真が一言コメント付きで紹介されている。食堂兼リビングルームは明るく開放感に満ちている。また職員達の笑顔が素敵であずみ苑並木町のコンセプト「つねに笑顔で」が自然体で行われている。管理者をはじめ職員全体は利用者が少しでも多くの楽しみを持っていただけるよう、イベントを数多く企画・実施して日頃の生活にハリと生き甲斐が持てる工夫をしている。また初めての取り組みで家族と一緒に手作りおやつでバイキングを楽しむなど、食を楽しむ工夫にも余念がない。日々の清掃や地域の催しへの積極的な参加は勿論、新しい試みで近隣小学校で「認知症とは」の寸劇を職員達が演じる等、地域に根差した苑に向けて積極的な活動が特筆される。更に利用しやすいよう入居一時金を徴収せず利用料金も格安に設定するなど門戸を広げ、利用者・家族から感謝されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は玄関入口に掲示しております。利用者の自立支援・利用者本位の運営・地域との連携地域への貢献の3つの理念を掲げています。出勤している職員は必ず朝礼時に理念を復唱し理念実現に向けた介護を心掛けております。	入居者の自立支援をお手伝いする・利用者本位の運営・など3つの理念を掲げ、職員は朝礼時に必ず理念を唱和して理念の実践に繋げている。玄関入り口に掲示するだけでなく、手作りのパンフレットにも理念を謳って関係者への周知にも努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、行事を開催しておりその際に地域のボランティアの協力のもと催しものを披露して下さっております。今後も、たくさんの方との交流を深められるように積極的に行事等を開催して行きたいと思っております。	一寸した散歩や買い物で外出した時は近所の人達と挨拶を交わしている。毎月苑で開催する行事には地域のボランティアの協力を得て歌や踊りを披露していただきまた夏祭りには山車が苑の前に来てくれたりして利用者を喜ばせている。初めての試みで職員が近隣小学校で「認知症とは」の寸劇を行ない色々な感想を貰うなど、苑の方から積極的に地域へ働きかけを行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポート養成研修を受講している職員がおり、その職員が認知症についての講演会を実施しております。また、成田市の小学校にて「認知症の病気とは」で職員が劇を実施しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市役所の介護保険課、高齢者福祉課、地域の区長、民生委員、入居者様のご家族代表に参加して頂いております。苑での活動内容や、反省点等を行っております。	市介護保険課・高齢者福祉課・民生委員・地域包括支援センター・家族数名のメンバーによる運営推進会議は隔月に必ず開催し、入居者状況や要介護度の内訳・行事の企画と実施状況について話し合われている。	会議報告書の整備は改善されてきている。更に報告の内容や参加メンバーからの意見や提言を詳しく議事録として記録され次回会議に活かせる工夫を期待したい。また、次の会議には今回の外部評価結果を報告し目標達成計画を披露して参加者にモニター役を担って頂くよう希望する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での意見交換や市で行っている研修等に積極的に参加しており、情報の共有に努めております。	介護保険課・高齢者福祉課の人が運営推進会議のメンバーなので意見交換などは常になされている。また市主催の認知症ミーティング等にも積極的に参加している。更に市の要請を受け認知症講演会も行なった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設では、身体拘束委員会を立ち上げており、毎月身体拘束についての話し合いをし、全体会議にて職員に身体拘束についての意識統一を図っております。また、外部の身体拘束の研修に参加し、研修報告として全体会議で発表しております。	苑内部に身体拘束委員会を持っており、毎月全体会議で職員全体が身体拘束についての意識の統一を図っている。更に県主催の身体拘束・虐待基礎コースにも参加し、持ち帰って研修報告の形で発表し共有している。昼間、玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払	常に、虐待についての内容を職員に周知し施設内での言葉の虐待がないように接遇等にも気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支	現在も、その様な事例がないですが今後、そのようなことがあったときの事を考え、資料を読んだり各職員も意識を持っていただくようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今回、料金改定となり契約書の方が新しくなりましたので再度、入居されているご家族様にも契約書の内容を説明させて頂き、ご納得の上ご契約を結んでおります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族様のご意見、ご要望を聴いています。またご意見箱を設置しています。外部者への表せる機会が出来ず、運営への反映ができていないの現状です。	面会の時や運営推進会議時に家族の意見や希望を聴いて運営に活かせるよう努めており、戴いた改善意見は直ぐに対応しているが、その人だけへの説明に終始している事を課題として挙げている。唯、毎月発行する「ぼっかばか」で苑内の毎月の行事や暮らしぶりを写真・イラスト入りで情報発信していて、家族からは家庭的な雰囲気・本人が望んでいる事を良く考え尊重して対応してくれるなど多くの満足の声寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回、全体会議を開催している。また、各フロアーと管理者でリーダー会議を行っている。その際に職員間の問題点及び業務内容についての検討を行っている。	管理者は職員と共に現場に入ってケアに当ており互いの距離感はなく、モノが言い易い雰囲気作りを努めている。新管理者に着任後、各々自己点検と反省・自分の長所・苑の要改善点など多項目に亘るアンケートを求めボトムアップに意欲的であり、高く評価したい。	月1回の全体会議の中にワンプointの勉強会を組み入れる等の工夫で、苑内の「勉強委員会」の充実を図るよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コンセプトにも書いてある、「つねに笑顔」を心掛けて業務を遂行しています。職員、入居者様がつねに笑顔で生活ができるような施設作りを心掛けております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各フロアーのリーダー職員は、社内研修に積極的に参加し新人職員の育成等に努めている。また、誤嚥性肺炎などの勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、成田市のグループホーム連絡会を実施している。管理者が集まり、成田市介護保健課の担当者も参加して下さっている。情報の共有ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に、職員はご入居者様の声掛けや体調の変化などに注意をしケアに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と連絡を取りながら、ご家族様の困っていることや不安に思っていることなどを伺い聞きながら解決出来るように努めております。また、ご家族様との信頼関係を構築しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様、ご家族様が安心してサービスが受けられるよう日々、ご家族様、ご利用者様の様子を感じとり要望に応じてサービスが提供出来るように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様が、自宅と同じように過ごせるようにお互いに安心した生活を送って頂けるように努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に来苑できるような環境作りを行っています。コンセプトにあるつねに笑顔を忘れずにご家族様と共に楽しく話が出来るとなるような環境になるように努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人であっても、自由に来苑でき日々のご入居者様の様子を感じ取って頂けるような環境作りを行っています。	家族や友人の来訪を歓迎しており、苑のコンセプトとしている「常に笑顔で」職員は迎えている。アンケートにも気軽に行きやすいと好評である。面会の頻度が少ない家族には着替えを持ってきて頂くなど、用事を作って面会促進を図っている。苑での生活が長くなってくると自然と職員達と利用者同士が一番身近な馴染みになってきており、管理者・職員はこの関係支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、職員はご利用者様の状態や様子を把握しご利用者様が苑での生活が楽しく過ごせるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了しても、ご家族様やご本人様との信頼関係を断ち切らないように相談や支援が出来るように努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に、ご本人の思いや意向を把握し聞き取りが困難な利用者様には表情や動きから意向をよみとり支援出来るように努めております。普段から、ご利用者様をよく観察することを心掛けております。	認知症が進んで思いや意向が表出できない利用者が増えてきており、日頃共に暮らす中で利用者の表情の変化やしぐさなどから意向を酌み取って支援出来るように努め、それぞれアセスメントシートに記録して介護計画に活かしている。	入居前の生活歴や生活史などをできる限り良く把握して職員全員が共有して支援できるよう、職員全体で相談してセンター方式の活用にチャレンジされるよう期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する以前での生活歴等はアセスメントで把握し少しでも、以前と同じような生活が出来るように職員と日々話し合いながら支援しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の無理がないように、施設での楽しい生活が送れるように支援しております。また、ご入居者様の状態に合わせてご本人の出来ることは行っていただくように支援		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員とカンファレンスを実施し現在のご利用者様の状態はどうか、困っていることはないか等を話し合い全職員が現状の把握に努め、話し合いの結果をもとに介護計画者を作成している。	毎月カンファレンスを実施し、利用者一人ひとりの状態や必要な事を全職員で話し合いアセスメントシートに記録し介護計画を作成している。そしてその人に合ったサービスが提供されているか担当職員と共にモニタリングを行なっている。状態の変化にはプランの見直しを行なう等柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を職員と話し合い、何か気づいたことがある場合は連絡ノートに記入をし職員は必ず出勤時にはノートを参照し情報を共有しながら業務に努めている。その結果、介護計画者の見直し等に活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人にあった、サービスが提供されているが職員と月1回、モニタリングを行いサービスの見直しを行い柔軟に支援が出来る取り組みを心掛けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週月曜日、傾聴ボランティアが来苑して下さり、ご利用者様と歌や話しをして下さっている。外出支援があまり出来ない状況ではあるが、近くを散歩することは行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、往診の先生が来られご利用者様の体調を確認して下さっている。また、入居する以前からかかっていた病院は入居してからもかかりつけ医を受診している。	月1回の往診を受けている。かかりつけ医や・他科目へは基本的に家族が付き添い受診とし、介護タクシーの手配等で支援をしている。入院した時は職員が見舞いに行っておりアソートには早く苑に帰りたいという声も見られる。また看護職員を新たに採用し平常の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が入社され、ご利用者様の体調管理の相談等を行っている。体調が悪い時などは、早めの受診対応し、入院にならないように努めております。また、往診時の対応や薬の管理も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時は、ご家族様と担当医、管理者は話し合いをもうけて現在の状況及び今後の対応について具体的に説明を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医やかかりつけ医からの助言をもとに今後の施設での生活やご家族様との話し合いを設け、他の病院等への紹介が出来るよう支援しております。	入所時に苑で出来る事・出来ない事を説明し同意を頂いている。医療を伴わない終末期については本人・家族の希望に応じて長く居て頂くよう支援している。医療の度合いが大きくなった時は主治医・家族・苑で話し合い利用者にとって最適の方法を採るようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、社内の緊急マニュアルを読みマニュアルに沿った対応が行えように努めております。普通救命急の訓練も行っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、消防署立会いのもと避難訓練を実施しております。その際に指摘があった部分は改善に努めて安全にご利用者様が避難出来るように訓練しております。今年度は、ご利用者様のご家族にも参加して頂き夜間時の非難訓練を実施しております。	本年度3回の訓練は夜間・地震・火災想定訓練を家族と共に実施した。避難には時間が掛かる事を確認した事を踏まえて職員への連絡網等整備して短時間で多数の職員が集まれるよう検討した。火気関係自主チェック表で毎日点検しており火災防災への意識が高い。	避難誘導に時間がかかる事を踏まえエリア長・管理者は要介護度の高い利用者や1階へ移す事や、地域住民に協力を得られる体制の強化を課題としている。早急な対応を希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内マニュアルにて接遇のマニュアルを職員は各自読んでいただき、常に職員はご利用者様の声掛けには注意をし、またプライバシーを損なわないように支援しております。	法人の接遇マニュアルを熟読・理解するよう教育・指導をしている。管理者はスキルの向上だけでなく、常に「おもてなしの心」を基本に置いて接遇・支援するよう毎日の気付きの中で指導・教育をしており、人生の先輩を敬う心で接するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日々の生活の中でご利用者様の思いや希望を表していただけられるように支援しております。また、ご本人からの思いを訴えることができないご利用者様は表情などを観察し少しでも思いや希望に沿えるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での1日の生活の流れはありますが、ご利用者様の生活に合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を聞きながら、髪形や洋服を着れるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事のときなどは、ご利用者様の好みにあった食事が提供出来るように栄養士さん協力のもと食事を提供している。食事の準備はご利用者様と一緒に野菜の皮むきなどを行っている。また、初めての取り組みでご家族様にも参加して頂き、手作りおやつでバイキングもを行い、楽しんでいただけるように取り組んでおります。	利用者の好みを把握し、うどんの苦手な利用者には別メニューにして楽しむ食事となっていた。栄養士の指導でバランスの摂れた食事になるよう支援している。イベント食・食レクなど季節を感じられる食事会も毎月開催している。初の試みで家族も参加しての手作りおやつでバイキングを行なうなど、食を楽しむ工夫には枚挙にいとまがない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の状態に合わせた食事形態を提供しています。食事、水分量をチェック表に記入し1日の摂取量を把握しています。摂取状況を確認し体調の変化に気をつけております。糖尿病の方の食事制限もあるので看護師、栄養士と相談し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっております。拒否があるご利用者様にはご本人のペースに合わせて口腔ケアを行なっています。また、定期的に訪問歯科により往診も受けており口腔内のチェックや治療をして下さっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に、排泄の声掛け行いご本人様の訴えがある時など随時行っております。排泄チェック表に記入をしご本人の排泄パターンを把握しトイレの声掛けを行っている。一人では立てない方もトイレに行きたいと訴えがある場合も職員2人介助で対応しております。	排泄チェック表でパターンを把握し、或いは動きやしぐさの変化を見て誘導の声かけをして自立排泄になるようトイレまで誘っている、トイレ迄の距離を色々工夫したクイズ等の声かけで歩くように残存能力の維持に努める工夫が窺える。必要に応じて居室にポータブルトイレも用意できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様の多くは、便秘で下剤を飲まれている方がおります。また、薬以外で排便が出るようにとヨーグルトを召し上がられているご利用者様もおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様のペースに合わせて、入浴が出来るように支援しております。また、入浴前にはバイタルチェックをし体調管理にも注意しています。	見守り・介護入浴で転倒や温度管理に配慮して支援している。拒否者には工夫した声かけでいざない最低週2回の入浴をして清潔を保つ努力をしている。入浴剤やゆず湯・菖蒲湯等で風呂を楽しんでいただく工夫もしている。また湯上り後、乾燥肌防止にも留意しスキンクリームを使う利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、安眠が出来るように日中は体操やレク活動を行っています。ご本人様のペースに合わせて拒否があるときには無理には行っていません。夜間眠れない方もおりますのでその方は、無理に眠らせるのではなく起きてもらったり温かい飲み物などを提供しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を職員が周知しご利用者様が飲んでいる薬を把握している。誤薬がないように職員と確認し毎食後チェックをしている。また、看護師も確認して下さっている。薬の変更時で分からないことも看護師が対応して下さっている。常に職員がご利用者様が何の薬を服用しているか把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様のペースに合わせて、楽しみのある活動を見つけ支援しています。毎日、ご本人様の好きな飲み物も提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの、外出する支援はあまり出ていないところですが、「おやつレク」として好きなおやつを食べに出掛けたり職員と一緒に買い物へ行くことは行っています。	車イス利用者も増えてきて毎日の散歩は難しいが出来るだけ近くの公園や買い物時に一緒に出かける等能力に応じた外出支援は出来ている。苑の周りを一周するだけの散歩や玄関前の広場での日光浴も外出支援ととらえ、外の空気に当たる事で季節感を感じて頂く支援をしている。	エリア長の発案で同法人のデイサービス施設から車両を手配して全員での企画外出(花見など)を検討中と聞く。年間スケジュールとしての外出支援を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、施設行なっています。買い物等へ行くときの支払い職員が行なっております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様から、ご家族様と電話がしたいとの申し出があった時にはご家族様に連絡をしお話ができるように支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった掲示物を作成し、ご利用者様に季節感を感じていただけるように支援しております。また、常に温度調節を行いご利用者様が快適に過ごせるように心掛けております。	毎月手作りの貼り絵や切り絵・イベント時の写真で飾り付けし季節感を感じ取れる空間となっている。入口廊下には職員の自己紹介コメント付きの写真があり来訪家族にも良く理解できると思われた。玄関入り口に季節を演出する草花などの飾り付けした方が良いとのエリア長・施設長の気付きも見られる。対応されるよう希望する。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様は、リビングにて日中は過ごされていることが多く定位置が決まっております。レク活動の際は、席から離れてレクを行い他のご利用者様と楽しく会話されたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています	ご利用者様の居室には、今まで使い慣れた家具等を持って来ていただき少しでも以前暮らしていたようなお部屋になるよう心掛けております。	入り口の名札にも個人の好みで大きく張り出してある居室もあり、飾り付けはこれまでの家庭の延長になるようにしている。マッチライター等火元になるような物以外の持ち込みは自由となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべてバリアフリーであり、必要と思われ得る個所にはすべて手すりが設置されております。職員は、ご利用者様の出来ることを把握し自立した生活が送れるよう支援しています。		